指導計画案

展開	指導上の重点目標	学習活動	指導上の留意点
導入	1 小説を虚構として捉えさせる。 2 作品を全体として大づかみに捉えさせる。	① 小説という文学ジャンルについて学ぶ。知技 ② 芥川龍之介とその作品について、知っていることをあげる。 ③ 全体を通読して、第一次の感想をメモする。疑問点や印象の強い点をあげる。 ④ 全体の構成を考えて、段落分けをする。思判表	① 「虚構」の役割を明確にする。 ② 教科書の作者紹介の範囲でとどめる。 ③ 作品の印象の傾向をとらえる。通読にはＣＤ教材の利用も考える。 ④ 場面の転換箇所に注意を促す。
展開	1 舞台と主人公の状況をはっきりさせる。 2 主人公の心理の問題点をつかませる。 3 主人公の心理の動きを追わせる。 4 舞台効果に注意させる。 5 主人公の心理の変化とその理由をつかませる。	① 〈第一段〉（初め～Ｐ一八六・6） 作品世界の社会状況、主人公の人物、状況をまとめる。 ② 舞台である羅生門の雰囲気をつかむ。 ③ 主人公である下人の心理の中心点をつかむ。思判表 ④ 小説の語り手のあり方に注意する。思判表 ① 〈第二段〉（Ｐ一八六・7～Ｐ一八九・9） 主人公の心理の変化を順を追って整理する。思判表 ② 主人公の憎悪の内容と特徴を考える。 ③ 主人公の心理を第一段の主人公の心理と比較する。思判表 ④ 舞台である羅生門楼上の空間の意味を考える。	① 地図、古典作品などの資料を生かす。 ② 復元写真によりながら、本来の偉容と作中の荒廃を対比する。 ③ 追いつめられた者のためらいに注意させる。 ④ 語り手が作者を名乗ることの効果を考えさせる。 ① 「構成」２を参考に、図表化を試みる。 ② 「雨の夜」「羅生門」という場の雰囲気と関連づける。 ③ 心理の反転、善と悪、ためらいと一途さなどを対比させる。 ④ 非日常的な空間が現出することに言及する。

展開	指導上の重点目標	学習活動	指導上の留意点
展開	6 老婆の論理の要点をつかませる。 7 比喩の効果を考えさせる。	①〜④〈第三段〉（P一八九・10〜P一九二・4） ① この段の短編小説としての構成上の役割を考える。 ② 主人公の心理の変化とその理由を明らかにする。思判表 ③ 老婆の論理の要点をつかむ。思判表 ④ 老婆に対する比喩表現の特徴と効果を考える。知技	①〜④ ① 動的な変化が起こる「転」の場面であることを指摘する。 ② 気分が老婆との関係で変化することを踏まえさせる。 ③ 二点をあげ、両者の意味をそれぞれ明らかにする。 ④ 動物の比喩の効果を考えさせる。
展開	8 主人公の決断と行動の心理をつかませる。 9 主人公のその後を考えさせる。	①〜④〈第四段〉（P一九二・5〜終わり） ① 主人公の勇気の内容を説明する。思判表 ② 老婆の論理が主人公の心理に与えた影響をまとめる。思判表 ③ 主人公の最後の行動の意味を考える。 ④ 末尾の一文の効果を考え、主人公のその後を想像する。主態	①〜④ ① 善と悪の方向をもとにまとめさせる。 ② 老婆の論理を逆手にとって口実に使う点を押さえさせる。 ③ 老婆に対する引剝ぎの意味を考えさせる。 ④ 下人の人間像の把握を前提にする。
まとめと発展	1 全体のまとめをして、主題について考えさせる。 2 作家と作品についてまとめさせる。 3 読書への展開を図る。	①〜④ ① 授業後の感想をまとめ、主題について考える。 ② 「学習のポイント」「言葉の学習」「言語活動」について深めていく。知技・思判表・主態 ③ 作者と作品について、必要事項を整理する。 ④ 作者のほかの作品を読み、表現を理解する。思判表	①〜④ ① 「主題」参照。唯一の正解はないが、単なる思いつきでなく、「論理」に裏づけされた説明を加えさせる。 ② 時間との関係で、取り立てて行う作業を選ぶ。ほかは授業で触れたことの確かめとする。言語活動 2 を行う際には、「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」（一九五ページ）を通読させる。 ③ 大正期の文学での位置づけ、歴史物の後期、現代物の後期、出生と自殺などに言及する。 ④ 小説を中心とする読書指導と表現指導を試みる。